

大正13年刊行の『糟屋郡志』を読む(11)

―大正時代のパンデミック・スペイン風邪

2019年12月に流行が始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2020年1月15日に国内初の感染者が報告され、2月4日時点では患者数16人と報告されています。

それが2020年11月15日の厚生労働省の発表では(II原稿執筆時の最新の発表)、空港検疫、チャーター便帰国者事例を除いた国内事例で、感染者が11万6,774人、死亡者が1,884人となりました。またたく間に感染が広がり、感染者やその家族、医療関係者、さまざまな経済活動、日常生活や学校行事に至るまで多大な影響を及ぼすことになりました。外出時のマスク着

用や施設に出入りする際の体温測定、手指消毒が当たり前になり、密(大勢が密集すること)を避けたり、換気の徹底などもさまざまな工夫されています。わずかな間に社会がすっかり様変わりしてしまいました。一時期、福岡市天神の目抜き通りを走る自動車の数もごくまばらという有様でした。

NHKの特設サイト「新型コロナウイルス」(2020年11月16日閲覧)によると、同日15時時点の世界中の感染者が5,437万1,866人、死者が131万7,139人でした。世界的な大流行を指す「パンデミック」という言葉も今では耳

慣れたものとなりました。

そこで改めて思い出されたのが、大正時代に世界的に流行したスペイン風邪です。2020年4月には、平凡社が東洋文庫に収録された、内務省衛生局編『流行性感冒―スペイン風邪―大流行の記録』(2008年発行)を期間限定でオンライン公開して話題になりました。

スペイン風邪は第一次世界大戦(1914〜18年)の最中、大正7年(1918年)〜9年(1920年)にかけて世界中で流行しました。右に掲げた『流行性感冒』の前置きにはこのように書かれています(ふりがなと読点を補いました)。

〔全世界を風靡したる流行性感冒は、大正七年秋季以来本邦に波及し、爾来大正十年の春季に亘り、継続的に三回の流行を来し、総計約二千三百八十万余人の患者と、約三十八万八千余人の死者とを出し、疫学上稀に見るの惨状を呈したり。〕

日本国内では3回の流行が記録されています(104頁)。国内の流行は西欧の流行よりも3、4か月遅れて始まりました。

- 第1回 大正7年8月〜8年7月
患者数 2,116万8,398人
死者数 25万7,363人
 - 第2回 大正8年10月〜9年7月
患者数 241万2,097人
死者数 12万7,666人
 - 第3回 大正9年8月〜10年7月
患者数 22万4,178人
死者数 3,698人
- 3回の総計
患者数 2,380万4,673人

死者数 38万8,727人
なお、同書の西村秀一氏の解説では「全世界で死者何千万人という未曾有の被害」とし、この本での国内死者数の合計38万人余についても「他の研究ではそれをはるかに超えるとする向きもある」としています。

これについてウィキペディア「スペインかぜ」では、速水融『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ―人類とウイルスの第一次世界大戦―(藤原書店、二〇〇六年)が「死亡者を約四五万人肺結核、気管支炎等が死因とされていた者を含む」と推計している」と紹介しています。

ところで、大正13年(1924年)刊行の『糟屋郡志』は、スペイン風邪大流行の数年後の刊行ですから、当然糟屋郡での被害状況についてふれていると思われるました。しかし、同書には関連する記事を見いだせませんでした。

た。そこでいったん大正9年・10年の『福岡県統計書』によって「郡市別」の統計を見ることにします。大正9年分に「大正七年〜九年」、大正10年分に「大正八年〜十年」の「流行性感冒患者・死者郡市別」の表がありました。それをまとめると4年分の統計になります。

- ① 大正7年 10月19日〜12月31日
- ② 大正8年 流行
- ③ 大正9年 流行中
- ④ 大正10年 流行中

まだ終息を見ない中での暫定的な数字ですが、これによると患者数・死者数が次のように記録されています。福岡県全体と福岡市、糟屋郡について見ておきます。

- 【福岡県全体】
- ① 大正7年 患者数 67万6,137人
死者数 7,125人
 - ② 大正8年 患者数 1万3,684人

- 【福岡市】
- ① 大正7年 死者数 347人
患者数 10万8,252人
 - ② 大正8年 死者数 7,222人
 - ③ 大正9年 死者数 1万2,399人
患者数 154人
 - ④ 大正10年 死者数 81万472人
患者数 1万4,848人
- ①〜④計 死者数 154人
患者数 154人

- 【糟屋郡】
- ① 大正7年 患者数 2万9,262人
死者数 888人
 - ② 大正8年 患者数 3万1,589人

- ① 大正7年 死者数 319人
患者数 161人
 - ② 大正8年 死者数 3人
 - ③ 大正9年 患者数 3,182人
死者数 281人
 - ④ 大正10年 患者数 313人
死者数 2人
- ①〜④計 死者数 605人
患者数 3万5,245人

大正10年末の福岡市の現住人口が10万5,267人、糟屋郡が8万4,796人でした。総計を見ると、人口の多い福岡市よりも患者数は糟屋郡が多く、死者数は糟屋郡が少なくなっています。『糟屋郡志』の衛生には次の項目を挙げています(町村別の内訳はありません)。産婆は現在の助産師です。

- 一、郡医師会 会員 四五
- 一、郡産婆会 会員 三八
- 一、私立病院 二

新宮村及志賀島村に在り	二〇
一、伝染病院	二〇
各町村に在り	二六
一、開業医	二六
各町村に在り	二
一、歯科医	二
志免村・箱崎町に在り	二八
一、産婆	二八
各町村に在り	

伝染病の項目には法定伝染病である腸チフス(チフス)・赤痢・疫痢・コレラ・痘瘡・ジフテリア(ジフテリア)・流行性脳脊髄膜炎の患者数・死亡数を挙げて次のように説明しています。

「伝染病は腸瘻扶斯・赤痢を最とし、各町村とも多少の発患者あるを免れず。なかんずく戸口稠密なる炭坑地方に於ては、常に其の発生を見ること多し」。大正十年の『福岡県統計書』衛生の内、「医師現在都市別」の糟屋郡を見ると次の通りです。

免許資格別

大学卒業	46人
官公立専門学校卒業	16人
指定私立専門学校卒業	7人
外国学校卒業	0人
試験及第	22人・女医1人
旧試験及第	1人
従来開業	5人
(合計)	97人・女医1人

他に、歯科医師3人、薬剤師2人、産婆64人などを挙げています。

